

# 第14回 桃太郎カップ水球 【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター

【2021/12/24】

## 女子1回戦

大阪選抜 3

2	—	3
0	—	3
0	—	4
1	—	1

11 神奈川選抜

PSO

審判： 御崎 智徳  
太田 一誠

大阪選抜	19	SH数	28	神奈川選抜
	2	速攻数	2	
	6	ST・SB	8	
	5	SH・P誘発アシスト	12	
	39%	GK阻止率	73%	
4	EX反則数	4		

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

### 【試合の流れ】

1P

泳力を含めて水球の総合力に勝る神奈川に対して、試合開始直後の大阪は臆することなく攻守にハツラツとしたプレーを見せ、⑤鍛冶からの好アシストパスで④松井がドライブSHを決めて点差を詰めた展開で1ピリオドを終えた。

2P

エンジンがかかってきた神奈川が積極的に泳ぎ、次々に退水を誘発しそこで加点して大阪を突き放しにかかった。ただ、退水時のシュートにはやや正確性を欠き、ゲーム展開ほどの点差には至らず、前半を大阪2-7神奈川で折り返した。

3P

試合のペースを完全につかんだ形の神奈川はほとんど大阪に攻撃の糸口を与えず、プレッシャーをかけて大阪側のパスミスを誘い出しての速攻やドライブ攻撃を次々に仕掛けて4得点。この時点で9点差に広げて余裕の試合運びの展開となった。

4P

余裕の出た神奈川であったが、メンバー交代後の選手が大阪の最後の攻撃を防げずに退水となる場面が増え、劣勢に陥ることが多くなったが、その退水SHを交代したGK⑬高山が好セーブ。その分、神奈川の攻撃場面が減少したこともあって、このピリオドは長いラリーの応酬となった。それでも前半の貯金を有効に使った神奈川が順当勝ち。しかし、最後まであきらめずに積極的な水球を展開した大阪もこの先に期待が持てるチームであろう。

### 【プレー分析から】

神奈川のGK①甘庶はジュニア選手としては定評のある守備力を有しており、大阪の有効シュートの多くがセーブとして阻止され、そうしたGK守備力をバックにした神奈川の攻撃起点がこの試合でも功を奏した。ただ、神奈川の攻撃力はそのシュート数にも表れているが、やや正確性が不足しており、特に退水時のシュートを決めきれていないことなど次の戦いには課題を残した形となった。

もう一つは優位に攻撃を進めている時の反則プレーが目立ち、試合のリズムを作れない状況が最後まで続いたことも課題であろう。